

《つなげよう交通ネットワーク —地域課題解決事業—》

令和2年度

これまでに、各機関が地区住民を対象に暮らしについてのアンケート調査を何度か行いました。

その結果、いずれの調査も、共通課題として「車の運転が出来なくなったら、買い物や病院通いが困る。路線バスは料金が高く、本数も少ない。」という老後の交通問題があげられました。そこで、安居ふるさと創り委員会との協働で、この問題に取り組むことにしました。



年度始めは、コロナ禍でなかなか活動もできず、8月に第1回目の会議を行いました。まず、現状がどうなのか？どのように取り組んでいったらよいのか話し合いました。団地に住んでおられる方など、今後益々高齢一人暮らしの増加が予想される当地区にとって、重要な課題だという認識を深めました。ただ、車の運行となると、料金が発生し、万が一事故が起きた場合の補償問題も出てくる難しい問題。まず、現状を把握し、対策の可能性について学習会をすることになりました。



西安居乗合タクシー時刻表

| 運転日 | 毎日 | 平日 | 平日 | 運転日 | 毎日 | 平日 | 平日 |
|---------|------|-------|-------|---------|-------|-------|-------|
| 清水プラント3 | 7:00 | 11:08 | 13:09 | 桜ヶ丘団地 | 10:10 | 12:10 | 18:35 |
| 風巻 | 7:01 | 11:10 | 13:10 | 桜ヶ丘団地入口 | 10:10 | 12:10 | 18:35 |
| 福祉センター | 7:02 | 11:11 | 13:11 | 一光口 | 10:12 | 12:12 | 18:37 |
| 上天下 | 7:04 | 11:13 | 13:13 | 更毛 | 10:14 | 12:14 | 18:39 |
| 出村 | 7:05 | 11:14 | 13:14 | 末 | 10:14 | 12:14 | 18:39 |
| 出村第二 | 7:05 | 11:14 | 13:14 | 平尾 | 10:16 | 12:16 | 18:41 |
| 清水診療所 | 7:06 | 11:15 | 13:15 | 清水畑 | 10:17 | 12:17 | 18:42 |
| 大森 | 7:07 | 11:16 | 13:16 | 本折 | 10:18 | 12:18 | 18:43 |
| 滝波口 | 7:07 | 11:16 | 13:16 | 滝波口 | 10:19 | 12:19 | 18:44 |
| 本折 | 7:08 | 11:17 | 13:17 | 大森 | 10:19 | 12:19 | 18:44 |
| 清水畑 | 7:09 | 11:18 | 13:18 | 清水診療所 | 10:20 | 12:20 | 18:45 |
| 平尾 | 7:10 | 11:19 | 13:19 | 出村第二 | 12:21 | 12:21 | 18:46 |
| 末 | 7:12 | 11:21 | 13:21 | 出村 | 10:21 | 12:21 | 18:46 |
| 一光口 | 7:12 | 11:21 | 13:21 | 上天下 | 10:22 | 12:22 | 18:47 |
| 更毛 | 7:14 | 11:23 | 13:23 | 福祉センター | 10:24 | 12:24 | 18:49 |
| 桜ヶ丘団地入口 | 7:16 | 11:25 | 13:25 | 風巻 | 10:25 | 12:25 | 18:50 |
| 桜ヶ丘団地 | 7:16 | 11:25 | 13:25 | 清水プラント3 | 10:26 | 12:26 | 18:51 |

9月、安居地区地域担当職員に調整して頂き、福井市地域交通課の方から、よく耳にする「福井市地域コミュニティバス運行支援事業」について学びました。

その目的は、●公共交通空白地域の解消 ●日常生活に必要な地域内移動の利便性向上 ●既存の幹線的なバス路線等との連携による広域的移動の利便性向上 であり、その達成に向けて地域住民の主体的な取り組みに基づき、必要とされる地域に、必要な形で効率的にバス交通サービスを提供するというものでした。

又、この事業の基本的な考え方として

- ① 意欲や熱意を持って主体的に取り組む地域を支援する。
- ② 地域の特性や移動ニーズに応じた事業計画の策定、利用促進・継続的な運行のための仕組みを設ける。
- ③ 路線バスへの支援制度との整合性を確保する。 という事でした。

これらを合わせて考えると、コミュニティバスは既存路線バスの地区内空白地帯を埋めるためのものである、**安居地区は東西に長い地形で、そこに路線バスが通っているので公共交通の空白地帯はない**、従ってコミュニティバスを通らせるのは難しい、という結論に繋がりました。

ただ、今回この問題を取り上げ調査したことによって、地域の方が、老後の心配を持っている一方で、現在の交通や事業所の買い物バスなどの情報について知らない人が多く、色々な情報を提供する事も大事だと感じました。



11月、「コミュニティバス」を走らせるのは難しいという結論の中、他の方法について話し合いました。

ある新聞に、永平寺町のボランティア団体が町の福祉車両を使って高齢者の買い物送迎をする事業を始めた、という記事が載っていて、それをヒントに高雄苑さんの福祉車両を使うのは可能か、という提案が出ました。今後は、その提案について進めていきたいと思っています。

又、住民の中には、地域の交通事情を知らないまま何となく不安を抱いている人もおり、今年度中には、情報を提供する広報誌を作成することになりました。

